

行動科学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
社会行動科学特論Ⅰ	AIと社会	2	佐藤 嘉倫	前期 月曜日 5講時	
社会行動科学特論Ⅱ	発展的なデータ解析	2	前田 豊	後期集中 その他 連講	
数理行動科学研究演習Ⅰ	社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル	2	佐藤 嘉倫 瀧川 裕貴	前期 金曜日 3講時	
数理行動科学研究演習Ⅱ	エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明	2	佐藤 嘉倫 瀧川 裕貴	後期 金曜日 3講時	
数理行動科学研究演習Ⅲ	社会科学のための統計的因果推論	2	浜田 宏	前期 水曜日 2講時	
数理行動科学研究演習Ⅳ	ベイズアプローチによる社会科学の理論と実証	2	浜田 宏	後期 水曜日 2講時	
計量行動科学研究演習Ⅰ	階層帰属意識の計量分析	2	木村 邦博	前期 火曜日 2講時	
計量行動科学研究演習Ⅱ	社会調査法への認知科学的アプローチ	2	木村 邦博	後期 火曜日 2講時	
計量行動科学研究演習Ⅲ	社会階層と不平等の計量分析	2	小川 和孝	前期 金曜日 2講時	
計量行動科学研究演習Ⅳ	応用多変量解析	2	小川 和孝	後期 金曜日 2講時	

科目名：社会行動科学特論 I / Social Behavioral Science(Advanced Lecture)I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫

コード：LM11503, 科目ナンバリング：LIH-OS0601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：AI と社会

2. Course Title (授業題目)：AI and Society

3. 授業の目的と概要：本講義では、AI が人間や社会に及ぼす影響を考察するとともに、人と人の相互作用を理論的前提とする行動科学や社会学のあり方を再検討する。さらには AI をめぐる倫理的問題も検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course studies the effects of AI on human beings and society, reconsider the theoretical premise in behavioral science and sociology that their theory begins with interaction of human beings, and discuss ethical issues related to AI.

5. 学習の到達目標：AI に対する理解を深めるとともに AI が人間や社会に及ぼす影響を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To have a better comprehension of AI and understand the effect of AI on human beings and society.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. AI、格差、ソーシャル・キャピタル
3. AI への認識とソーシャル・キャピタルの関係
4. AI と職業
5. AI とレコメンド機能
6. AI に対する信頼
7. ソーシャル・キャピタルと AI の影響
8. AI への親和性
9. AI と家族
10. AI と教育
11. AI と健康医療福祉
12. AI と地域活動
13. AI と倫理
14. AI と社会科学の問い直し
15. 総復習

8. 成績評価方法：

レポート (50%)、出席 (50%)

9. 教科書および参考書：

佐藤嘉倫・稲葉陽二・藤原佳典『AI はどのように社会を変えるか』(東京大学出版会)

10. 授業時間外学習：講義中の議論に積極的に参加できるように、事前に教科書の関連する章に目を通すなど予習をしておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワー：金曜日 12:00-13:00 事前に予約すること。

科目名：社会行動科学特論Ⅱ／ Social Behavioral Science(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

semester：2 学期集中 単位数：2

担当教員：前田 豊

コード：LM98832, 科目ナンバリング：LIH-OS0602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：発展的なデータ解析
2. Course Title (授業題目)：advance data analysis
3. 授業の目的と概要：目的：自身の関心に合わせて、多様なデータに適切に対応した分析ができるようになる。
概要：自身の関心に合わせて、多様な形式のデータを柔軟に使いこなせるためのスキル・知識の涵養を行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Through this class, student will be expected to acquire the knowledge on the various statistical techniques, and the skill to conduct statistical analysis according to own interest.
5. 学習の到達目標：自身の関心に合わせて、多様なデータ形式に適切に対応した分析ができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：the goal of this class is that each student enrolled is able to conduct the proper statistical analysis of their interest.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
広く経験科学に属する学徒にとって、柔軟に自身の関心に応じた現象・データに適切な解析手法を選択する知識は欠かすことができない。本授業ではQCA・SCM(Synthetic Control Method)・ネットワークサンプリングを重点的に取り上げ、それらの解説とRでの実践方法の解説を試みる。

第1回：論理と集合
第2回：csQCAの考え方
第3回：ロジカルリマインダーと矛盾する行（条件組み合わせ）
第4回：fsQCAへの拡張
第5回：Rでの実践：QCA
第6回：因果推論の基礎
第7回：固定効果モデルとDD
第8回：SCMの考え方
第9回：SDDへの拡張
第10回：Rでの実践：SCM
第11回：ネットワークサンプリングとRDS
第12回：ネットワークのERGMによる表現
第13回：RDSデータからの推定：RDS IとRDS II
第14回：RDSデータに基づく回帰分析
第15回：Rでの実践：ネットワークサンプリングと推定
8. 成績評価方法：
期末レポート：100%
9. 教科書および参考書：
指定しない。関連書籍・論文は授業内で紹介する。 Not designated. Related books and articles will be introduced in class.
10. 授業時間外学習：Rの実習を含むため、事前のRのインストールと基本的な使い方についての習熟を求める。 Since the contents of this class include the practice of R, it is expected for the students to install and acquire the basic skill of R in advance.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：数理行動科学研究演習 I / Mathematical Behavioral Science (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫・瀧川 裕貴

コード：LM15304, 科目ナンバリング：LIH-OS0603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル
2. Course Title (授業題目)：Self-organization of Social Order and Agent-based Models
3. 授業の目的と概要：人々が自発的に秩序（協力行動など）を生み出している社会現象がある。本演習では、教科書を輪読して、これらの現象を分析する方法を理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will read the textbook to understand how to study self-organization of social order.
5. 学習の到達目標：進化ゲーム理論やエージェント・ベースト・モデルが社会学にいかなる貢献をするのか理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will understand how evolutionary game theory and agent-based models contribute to sociology.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 教科書の輪読 (1)
 3. 教科書の輪読 (2)
 4. 教科書の輪読 (3)
 5. 教科書の輪読 (4)
 6. 教科書の輪読 (5)
 7. 教科書の輪読 (6)
 8. 教科書の輪読 (7)
 9. 教科書の輪読 (8)
 10. 教科書の輪読 (9)
 11. 教科書の輪読 (10)
 12. 教科書の輪読 (11)
 13. 教科書の輪読 (12)
 14. 教科書の輪読 (13)
 15. ここまで演習で取り上げたトピックを再検討し、エージェント・ベースト・モデルによる社会秩序の自己組織メカニズムの分析について探究する。
8. 成績評価方法：
() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [50%] ・ (○) 出席 [50%]
9. 教科書および参考書：
スコット・E・ペイジ『多モデル思考』(森北出版)
10. 授業時間外学習：演習中の議論に積極的に参加できるように、事前に教科書の関連する章に目を通すなど予習をしておくこと。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
オフィスアワー：金曜日午後 12 時～午後 1 時（事前に予約すること）
後期の数理行動科学研究演習 II と併せて参加すること

科目名：数理行動科学研究演習Ⅱ／ Mathematical Behavioral Science(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫・瀧川 裕貴

コード：LM25302， 科目ナンバリング：LIH-OS0604J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明
2. Course Title (授業題目)：Analysis of Self-organization and Agent-based Models
3. 授業の目的と概要：エージェント・ベースト・モデルの手法を修得し、自分で自己組織性を解明する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students are expected to master methods of agent-based modeling and study the process of self-organization by themselves.
5. 学習の到達目標：前期の議論を踏まえて、実際にエージェント・ベースト・モデルを構築して、社会の自己組織性を自分で解明できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to build agent-based models and study self-organization by themselves.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. プログラミング入門 (1)
 3. プログラミング入門 (2)
 4. プログラミング入門 (3)
 5. 研究テーマの決定とグループ分け
 6. グループ別の進行状況報告と検討 (1)
 7. グループ別の進行状況報告と検討 (2)
 8. グループ別の進行状況報告と検討 (3)
 9. グループ別の進行状況報告と検討 (4)
 10. グループ別の進行状況報告と検討 (5)
 11. グループ別の進行状況報告と検討 (6)
 12. グループ別の進行状況報告と検討 (7)
 13. グループ別の進行状況報告と検討 (8)
 14. グループ別の進行状況報告と検討 (9)
 15. 各グループによる最終的な研究報告
8. 成績評価方法：
() 筆記試験 [%]・(○) レポート [50%]・(○) 出席 [50%]
9. 教科書および参考書：
開講時に指示する。
10. 授業時間外学習：グループに分かれてプログラミングを行うので、積極的にグループワークに参加すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
オフィスアワー：金曜日午後12時～午後1時（事前に予約すること）
前期の数理行動科学研究演習Ⅰと併せて参加すること

科目名：数理行動科学研究演習Ⅲ／ Mathematical Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：浜田 宏

コード：LM13209, 科目ナンバリング：LIH-OS0605J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会科学のための統計的因果推論

2. Course Title (授業題目)：Causal inference for Social Science

3. 授業の目的と概要：1) 社会現象を統計モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ。

2) 現実の社会現象をどうやって統計モデルとして定式化するかを演習を通して学ぶ。見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Course objectives is to understand basics of statistical model

5. 学習の到達目標：データの分析手法を習得する

現象の数学的表現を習得する

日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Learnig goal is to understand the method to formalize a statistical model.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

テキストを輪読しながら数学的詳細をフォローする。計算が必須なので必ず予習すること。

授業の実施形態：オンライン

1. イントロダクション

2. 基礎的事項, 変数の種類と相互の関係, 交絡の調整

3. 群間比較と統計的推測

4. 回帰分析, OLS 推定量の分布, 共分散分析

5. ロジスティック回帰, 条件付き期待値回帰

6. 処置効果, STUVA 条件

7. 共変量と条件付き独立

8. 傾向スコア 線形制約 操作変数法

9. マッチング 線形制約と回帰係数の均一性

10. マッチングによる処置効果の推定

11. 層化解析法, 重み付け法 モーメント法

12. 操作変数とノンコンプライアンス

13. 内生性, 欠落変数バイアス, TSLS 推定量

14. 最尤法, 漸近理論

15. まとめ

8. 成績評価方法：

毎回の課題 [80%], 期末課題 [20%]

9. 教科書および参考書：

教科書：岩崎学, 2015, 『統計的因果推論』朝倉書店。

参考書：鹿野繁樹, 2015, 『新しい計量経済学』日本評論社,

末石直也, 2015, 『計量経済学』日本評論社

久保拓哉, 2012, 『データ解析のための統計モデルリング入門』岩波書店。

10. 授業時間外学習：毎週、指定された予習範囲を事前に読みコメントペーパーを準備する

指定された予習範囲の計算や証明を自分で確かめる

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

確率論, 微分積分, 線形代数の授業を事前に履修していることが望ましい。事前に履修していない場合は授業を通して学習することが必要である。

科目名：数理行動科学研究演習Ⅳ／ Mathematical Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：浜田 宏

コード：LM23211, 科目ナンバリング：LIH-OS0606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ベイズアプローチによる社会科学の理論と実証
2. Course Title (授業題目)：Social Science and Bayesian Statistics
3. 授業の目的と概要：1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ。
2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ。見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：1. To learn the method that explain an interesting social phenomenon with mathematical models and statistical analysis
2. To learn how to formalize an interesting social phenomenon through this course. To train the ability that specifies the problem from good samples.
5. 学習の到達目標：Stanを使ったベイズ統計の分析手法を習得する
現象の数学的表現を習得する
日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1.To learn Bayesian statistical analysis by Stan and R.
2.To learn mathematical formalization and modeling
3.To train the ability that specify and abstract the essence of social phenomenon
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業はClassroomを使用します。クラスコードは rajtwlo です。
 1. イントロダクション モデルとはなにか
 2. 真の分布, 確率モデル, データ
 3. 最尤推定
 4. ベイズ推定
 5. MCMC
 6. 確率分布
 7. 汎化誤差, AIC, WAIC, 予測分布
 8. Stanによる分析：回帰
 9. Stanによる分析：モデル式の書き方
 10. Stanによる分析：階層モデル
 11. Stanによる分析：所得分布分布生成モデル
 12. Stanによる分析：観測モデルとの接合
 13. Stanによる分析：時間割引モデル
 14. Stanによる分析：教育達成の階層間格差
 15. まとめと総括
8. 成績評価方法：
毎回の課題 [80%], 期末課題 [20%]
9. 教科書および参考書：
教科書：浜田宏・石田淳・清水裕士, 2019『社会科学のためのベイズ統計モデリング』朝倉書店。
参考書：久保拓哉, 2012, 『データ解析のための統計モデリング入門』岩波書店。
松浦健太郎, 2016, 『StanとRで統計モデリング』共立出版
Gelman et al. 2013, Bayesian Data Analysis, Third Edition, CRC Press.
その他の参考書は適宜指示する
10. 授業時間外学習：予習に指定した範囲を事前に読んでくること。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
本演習ではRとStanによる実装例を紹介するので、実行環境を整えたPCを準備できることが望ましい。
また高校・大学初年度レベルの微積分を復習しておくことが望ましい。

科目名：計量行動科学研究演習 I / Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LM12210, 科目ナンバリング：LIH-OS0607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：階層帰属意識の計量分析

2. Course Title (授業題目)：Quantitative Analysis of Class Identification

3. 授業の目的と概要：(1) 階層帰属意識に関する計量行動科学的研究の動向を把握し、今後の展開を展望する。

(2) 学術的な英語文献を読む力をつけるとともに、行動科学的な思考力を養う。

(3) 多変量解析を用いた計量的研究を理解し、自分でも実施する力を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this seminar is threefold:

(1) to review the studies on class identification

(2) to improve students' ability to read academic English texts,

and

(3) to deepen students' understanding of multivariate methods in behavioral science.

5. 学習の到達目標：(1) 階層帰属意識に関する行動科学的研究の動向を把握し、今後の展開を展望する。

(2) 学術的な英語文献を読む力をつけるとともに、行動科学的な思考力を養う。

(3) 多変量解析を用いた計量的研究を理解し、自分でも実施する力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To understand the current state of the studies on class identification.

(2) To acquire English language skills for academic studies.

(3) To acquire knowledge of multivariate methods in behavioral science.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 授業計画の説明、研究動向の概観

2. Velso and Beeghley (1979)：内容理解

3. Velsor and Beeghley (1979)：方法論的検討 (重回帰分析)

4. Felson and Knoke (1974)：内容理解

5. Felson and Knoke (1974)：方法論的検討 (重回帰分析とパス解析)

6. Erikson and Goldthorpe (1992)：内容理解

7. Erikson and Goldthorpe (1992)：方法論的検討 (ログリニアモデル)

8. Davis and Robinson (1998)：内容理解

9. Davis and Robinson (1998)：方法論的検討 (ロジスティック回帰分析)

10. Baxter (1994)：内容理解

11. Baxter (1994)：方法論的検討 (ロジスティック回帰分析におけるモデル比較)

12. Yamaguchi and Wang (2002)：内容理解

13. Yamaguchi and Wang (2002)：方法論的検討 (重みづけパラメータを導入したロジスティック回帰分析)

14. Lindemann and Saar (2014)：内容理解

15. Lindemann and Saar (2014)：方法論的検討 (マルチレベル分析)

8. 成績評価方法：

期末レポート (Google Classroom で提出) [50%]、平常点 (授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程) [50%]

9. 教科書および参考書：

American Sociological Review, American Journal of Sociology, Journal of Marriage and Family などの学術誌に掲載された論文で指定されたもの (「授業内容・方法と進度予定」欄に掲載) を、参加者各自が「電子ジャーナル」からダウンロードする。

10. 授業時間外学習：(1) 演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。

(2) 担当の文献に関する報告の準備をする。

(3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

(1) 専門社会調査士資格認定標準科目 I に対応。

(2) 受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認し、初回の授業に必ず参加すること。

科目名：計量行動科学研究演習Ⅱ／ Quantitative Behavioral Science(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：木村 邦博

コード：LM22207, 科目ナンバリング：LIH-OS0608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査法への認知科学的アプローチ
2. Course Title (授業題目)：Cognitive Approaches to Survey Methodology
3. 授業の目的と概要：1980年代頃から、認知科学・認知心理学の方法や成果をもとに社会調査法に反省・検討を加えようという試みが行われるようになってきた。そのひとつの流れが、CASM (Cognitive Aspects of Survey Methodology) と呼ばれる研究プロジェクトである。このプロジェクトの研究動向 (先駆的・古典的研究も含む) についてレビューするとともに、そこでの知見を社会調査の現場 (企画・準備・実査から分析や成果報告に至るまでのプロセス) に実践的に生かす道を探求する。あわせて、センシティブな質問などを用いる場合の倫理的問題とそれへの対処法などについても考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Since 1980s, a research project titled "Cognitive Aspects of Survey Methodology," which aims to improve survey methods from the perspective of cognitive science, has accumulated studies on survey processes. This seminar provides an opportunity for students to read important articles (including pioneering or classical ones) in this project, explore its application to future surveys, and establish their ideas on ethical problems in surveys (especially those involving sensitive topics).
5. 学習の到達目標：認知科学等の知見を社会調査の企画・準備・実査・分析・報告・倫理向上に活かす。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn how to apply findings in cognitive science to designing, preparing, and conducting their own surveys, as well as analyzing the survey data and reporting the results.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目の授業は Google Classroom (Meet を含む) を利用して実施します。
Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。
 1. 授業計画の説明
 2. 世帯調査におけるカバレッジ誤差 (Martin 1999)
 3. コーディングのエラー (Collins and Courtenay 1985)
 4. 事実質問における不明確な言葉 (Fowler 1992)
 5. 出来事の想起 (Neter, et al. 1964)
 6. 事実質問における回答選択肢 (Schwarz, et al. 1985)
 7. センシティブな質問 (Tourangeau, et al. 1996)
 8. 無回答・回答拒否 (Groves, et al. 2006)
 9. 質問順序効果 (Schwarz, et al. 1991)
 10. 評定尺度におけるラベルの影響 (O'Muircheartaigh, et al. 1995)
 11. 評定尺度における方向性と強度 (Krosnick and Berent 1993)
 12. プリテストの新手法 (Oksenberg, et al. 1991)
 13. 調査員効果 (Schuman and Converse 1971)
 14. 調査員変動 (Kish 1962)
 15. インフォームドコンセントの方法 (Singer 1978)
8. 成績評価方法：
期末レポート (Google Classroom で提出) [50%]、平常点 (授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程) [50%]
9. 教科書および参考書：
Public Opinion Quarterly, Journal of the American Statistical Association, Journal of Official Statistics, American Sociological Review などの学術誌に掲載された論文で指定されたものを、参加者各自が「電子ジャーナル」からダウンロードする。
10. 授業時間外学習：(1) 演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。
(2) 担当の文献に関する報告の準備をする。
(3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
 - (1) 専門社会調査士資格認定標準科目 H に対応。
 - (2) 受講希望者は初回の授業までに必ず Google Classroom 上で授業計画・実施方法等を確認し、初回の授業に必ず参加すること。

科目名：計量行動科学研究演習Ⅲ／ Quantitative Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LM15209, 科目ナンバリング：LIH-OS0609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会階層と不平等の計量分析
2. Course Title (授業題目)：Quantitative Analysis on Social Stratification and Inequality
3. 授業の目的と概要：社会階層と不平等に関わる諸問題について、文献講読を通じて理論と量的データ分析の方法への理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers a variety of topics on social stratification and inequality. Students learn theories and statistical methods of relevant areas through reading and discussion of literature.
5. 学習の到達目標：(1) 文献講読を通じて、社会階層と不平等に関する理論と実証分析への基本的な理解を身につける。
(2) 期末レポートの執筆を通じて、自ら注目した事例に対して授業で学んだキーワードを適用し、適切な説明をできるようにする。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To gain basic understandings on the theories and empirical analyses in the field of social stratification and inequality through literature review
(2) To write a term paper that applies keywords on cases that are chosen by students themselves
7. 授業の内容・方法と進度予定：
事前に指定された文献を講読し、予習課題に取り組んだ上で授業に出席することが求められる。授業では初めに予習課題の理解を確認し、解説を適宜行う。授業の後半では関連する論点・事例を取り上げてディスカッションを行う。

【各回の構成】

1. イントロダクション
2. 社会階層と不平等の理論 (1)
3. 社会階層と不平等の理論 (2)
4. 社会階層と不平等の測定 (1)
5. 社会階層と不平等の測定 (2)
6. 教育
7. 労働市場
8. ジェンダーと家族
9. 社会意識
10. 健康
11. 不平等の国際比較
12. 規範的正義と再分配 (1)
13. 規範的正義と再分配 (2)
14. 総合演習 (1)
15. 総合演習 (2)
8. 成績評価方法：
予習課題への取り組み (30%)、授業内での議論への参加および授業後コメントの提出 (30%)、期末レポート (40%)
9. 教科書および参考書：
初回の授業で指定する。
10. 授業時間外学習：指定文献を事前に読み、予習課題に取り組むことが要求される。予習課題においては文献の理解のみならず、社会的不平等に関わる諸問題について、ニュースなどから情報を集めることも求められる場合がある。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：計量行動科学研究演習Ⅳ／ Quantitative Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LM25210, 科目ナンバリング：LIH-OS0610J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：応用多変量解析

2. Course Title (授業題目)：Advanced Multivariate Analysis

3. 授業の目的と概要：多変量解析の応用的なトピックに関して、文献講読を通じて理論と実証分析への適用方法について理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers advanced topics in multivariate statistical analysis. Students are expected to gain understandings on the theories and empirical applications through reading literature.

5. 学習の到達目標：(1) 文献講読を通じて、社会階層と不平等に関する理論と実証分析への基本的な理解を身につける。

(2) 期末レポートの執筆を通じて、自ら注目した事例に対して授業で学んだキーワードを適用し、適切な説明をできるようにする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To gain basic understandings on the theories and empirical analyses in the field of social stratification and inequality through literature review

(2) To write a term paper that applies keywords on cases that are chosen by students themselves

7. 授業の内容・方法と進度予定：

事前に指定された文献を講読し、予習課題に取り組んだ上で授業に出席することが求められる。授業では初めに予習課題の理解を確認し、解説を適宜行う。授業の後半では関連する論点・事例を取り上げてディスカッションを行う。

【各回の構成】

1. イントロダクション
2. 一般化線形モデル
3. マルチレベル分析 (1)
4. マルチレベル分析 (2)
5. 構造方程式モデリング (1)
6. 構造方程式モデリング (2)
7. 傾向スコア分析 (1)
8. 傾向スコア分析 (2)
9. パネルデータ分析 (1)
10. パネルデータ分析 (2)
11. 生存分析 (1)
12. 生存分析 (2)
13. 総合演習 (1)
14. 総合演習 (2)
15. 総合演習 (3)

8. 成績評価方法：

予習課題への取り組み (30%)、授業内での議論への参加および授業後コメントの提出 (30%)、期末レポート (40%)

9. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。

10. 授業時間外学習：指定文献を事前に読み、予習課題に取り組むことが要求される。指定文献に関連した内容について、方法の詳細や適用例について自分で調べることを求められる場合もある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし